

～ 子どもたちが学校， 地域で笑顔で輝けるように～

～進路情報～



〈就業体験報告〉

5月19日～21日の3日間，高等部3年生1名が，障がい者支援施設 眉山園において実習を行いました。

毎日違う内容の作業でしたが，自分なりの目標を決めて集中して取り組むことができました。施設という学校とはちがう環境の中での作業を体験することで，卒業後に向けての課題を見つけることができ，日々の学習に対する意欲も高まったようです。

○眉山園 徳島市南庄町



〈就業体験の感想〉

就業体験では，バリ取りやちぎり作業，冊子の袋づめなどをしました。卒業後，ひのみね総合療育センターを出てからの生活のことが少しイメージできるようになったことです。

就業体験が終わって，学校の授業をがんばろうと思いました。
長い時間，作業を続けられる集中力を身につけたいと思いました。



☆施設見学について☆

今年度は，9月中旬の平日の午前中に，施設見学を実施する計画で進めています。
場所は，障がい者支援施設 有誠園 を予定しています。

○有誠園 名西郡石井町石井字城ノ内



支援機器「紹介コーナー」

Q VOCA (Voice output Communication Aids) って何ですか？

VOCAとは、スイッチ部分を押すことで、機械の音声を使って相手に自分の意思を伝えることができるコミュニケーション補助具のことです。通称「ボカ」と呼ばれています。VOCAは、機械の種類も様々で、その人の実態に応じて活用する方法も様々です。機器のうち本校で最もよく使われているものを紹介したいと思います。



【ビッグマック】

一つのメッセージを録音することができる非常にシンプルな会話補助装置。ボタンが大きく、手の操作がうまくいかない人でも簡単に押すことができる。



【ステップバイステップ】

メッセージを複数録音することができる会話補助装置。押すたびに次のメッセージが流れる。簡単なやりとりや司会の進行を可能にする。小型で持ち運びがやすく、軽力で押すことができる。本体に傾斜がついており、卓上においた時に押しやすい。小さな手の動きでも押しやすい。

初めて目にする人は、「機械がしゃべっている」、「この子が言っている訳ではない」という違和感を感じることもあるようです。しかし、この機器を用いるようになると、子ども達はしだいに意思にしたがって押すようになります。はじめは、メッセージが発信できることがうれしくて、意欲的にメッセージを発信しようとします。しかしそのうち、そのメッセージを理解し自分の言葉として発信するようになります。「おわります」「さようなら」はしたくないから押さないなど、自分の意思と違うメッセージは押さなくなることもあります。

VOCAを用いることで、いままで「おはよう」と声をかけてもらっていた朝の登校が、「おはようございます！」と自分のあいさつで1日が始まります。なんてステキなんでしょう。中には、昨日の出来事を話してくれるお子さんもいます。VOCAは使い方次第で限りなく生活を豊かにすることができます。ご家庭でも使用している方もいらっしゃいます。学校でもとても活躍している機器です。



